

2024年度自己点検・評価報告書

実施部署： 教育開発・支援センター

数理・データサイエンス・AI（学内視点）		各部署記入欄		
NO	点検項目	自己評価	点検項目について、構成項目を踏まえた現状説明	自己評価を踏まえた課題とその発展方策
①	プログラムの履修・修得状況	A	履修データからプログラムの履修状況を把握し、各学部において判定シートを作成することで、受講者毎の修了要件単位取得状況を把握することができる。2024年度は126名の修了が認定された。	修了者数は1%未満であり、履修率を向上させる体制が求められる。修了証を発行するのは希望者だけのため、修了割合は低くなる。 履修率を向上させるために2024年度は春学期、秋学期各1コマ計2コマを開講し、学生の受講環境を整備した。広報および改善を継続的に実施し、全学的な履修率の向上を推進する。
②	学修成果	B	教育開発・支援センターにおいて、修了必須科目受講者に対して「数理データサイエンス人工知能リテラシーレベルプログラムに関するアンケート」を実施し、「設問2：この科目を履修して、どのようなことが理解できるようになりましたか」の項目を分析することによって、テーマごとの学修成果を把握することができ、その結果を本教育プログラムの評価・改善に活用している。	「社会で起きている変化や活用されているデータ」「データ・AIを活用した新しいビジネス・サービス・技術」「データ・AIを利活用することで生まれる付加価値や最新動向（ビジネスモデル・テクノロジー）」「データ・AIを扱う上、またデータを守る上での留意事項」といったテーマをそれぞれ満遍なく理解できたとの回答があった。より幅広いテーマで学生が理解できるよう、引き続き精査する。
③	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	A	教育開発・支援センターにおいて、修了必須科目受講者に対して「数理データサイエンス人工知能リテラシーレベルプログラムに関するアンケート」を実施し、「設問3：「データサイエンスAI概論」の授業内容を理解できましたか」の項目を分析することによって、学生の理解度を確認している。	「とても理解できた」と「少し理解できた」が春学期、秋学期合わせて97%あり、理解度がより高い授業が提供できた。修了必須科目受講者に対する「数理データサイエンス人工知能リテラシーレベルプログラムに関するアンケート」の回答をふまえて、さらなる理解度の向上に努める。
④	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	B	教育開発・支援センターにおいて、修了必須科目受講者に対して「数理データサイエンス人工知能リテラシーレベルプログラムに関するアンケート」を実施し、「設問4：学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度」の項目を分析することによって、後輩学生や他の学生へ推奨していることを確認している。	「数理データサイエンス人工知能リテラシーレベルプログラムを他の学生にも勧めたい」という割合は90%あり、Oh-o!Meijiシステム（LMS）アンケート機能による授業時間内外での質問対応、ティーチング・アシスタントの配置等、きめ細やかな学修支援を行うことで、引き続き高い水準を目指す。
⑤	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	A	全学レベルでのデータサイエンスプログラムをまとめたページを作成し、当該ページ内で修了した学生のインタビューも掲載した。在学生に本学のデータサイエンスプログラムを認識できるようにするとともに、これから入学する受験生に対しても、本学のデータサイエンス教育をアピールすることができ、全国の進学相談会で使用される大学ガイドにも案内し、作成したページにもリンクできるようにした。	Oh-o!Meijiシステムによるお知らせ、本学のウェブサイト上での周知、プレスリリースにより、学生が情報を受け取りやすい環境を整備することで、高い水準を目指す。
数理・データサイエンス・AI（学外視点）		各部署記入欄		
NO	点検項目	自己評価	点検項目について、構成項目を踏まえた現状説明	自己評価を踏まえた課題とその発展方策
⑥	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	A	2025年3月に卒業した修了者の半数近く（62名中26名）が大学院に進学しており、その中で情報系の専攻である本学先端メディアサイエンス専攻が最大の進学先となっている。その他の修了者についても、他大を含めた情報系の大学院に進学しているケースが多い。就職する場合でも、SE（システムエンジニア）など、情報関連企業に就職するケースが多い。また、進路先が決定してから修了しているケースも多く、進路決定後のキャリア形成に意識できるプログラムになっていることがわかった。	本プログラムが情報系企業に就職する道筋になっている。主な進路先を公表することによって、どの学部であっても、このプログラムが情報系企業に就職するプロセスに寄与できる。また、進路決定後のキャリア形成にも寄与できることを学生に意識づけさせる。
⑦	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	B	「データサイエンスA I 概論」の講師の中で、企業に所属している実務経験者にアンケートを実施し、プログラム改善に係る意見を収集するとともに、教育開発・支援センターにおいてプログラムの改善に活用している。	企業に所属している実務経験者へのアンケートによると、レポート、コメントや質問から、学生が真剣に講義を聞いてくれたことがよく伝わってきたとの回答を得た。アンケートも含めた意見聴取の内容を反映させ、社会で活躍できる人材を養成するプログラムとなるような取り組みを進める。
⑧	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	B	教育開発・支援センターにおいて、修了必須科目受講者に対して「数理データサイエンス人工知能リテラシーレベルプログラムに関するアンケート」を実施し、「設問5：「データサイエンスAI概論」を受講して、データサイエンスや人工知能への関心が高まったり、これを学ぶ意義が理解できましたか」により項目の分析を行っている。	「大いに当てはまる」、「やや当てはまる」を合わせると97%が「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解したと回答した。春学期、秋学期を合わせると1,300名を超える履修者がある中で、「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を十分理解させていることから継続していく。
⑨	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	B	教育開発・支援センターにおいて、修了必須科目について「授業改善アンケート」を実施し、関係項目を分析することにより、検証している。	「データサイエンスAI概論」の授業改善アンケートにおいて、質問のしやすさについては「とても配慮されていた」「少し配慮されていた」が合わせて86%、資料の見やすさについては「とても見やすい」「おおむね見やすい」が合わせて92%、満足度も「とても良い授業だと思う」「おおむね良い授業だと思う」が合わせて98%となった。適切に受講できる形態で運営でき、次年度以降も継続する。

- A. 課題を改善した又は新たな取組みがあった
- B. 概ね前年通りである又は特に問題はない
- C. 更なる改善が必要な点がある